

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

## 傷害速報 No.32 首浮き輪による溺水の類似事例 3

事例	年齢：6 か月 性別：男児 体重：7.55kg 身長：65.5 cm	
傷害の種類	溺水	
原因対象物	首浮き輪	
臨床診断名	低酸素性虚血性脳症の疑い	
医療費	2,079,330 円	
発生状況	発生年月日・時刻	2014年7月3日 午後9時10分
	発生時の詳しい様子と経緯	<p>母は、いつもお風呂は別に入っているため、母の見守りの元、児だけを入浴させていた。自宅浴槽内で、首浮き輪を頸部に装着して入浴していた。湯の深さは、児の足がつかない深さであった。母がリビングに洗濯物をとりに、約1分間ほど目を離して浴室に戻ると、児の首から首浮き輪が外れて、児がうつ伏せで浴槽の底に沈んでいた。急いで母が抱き上げると、腕がだらりとしていて呼吸が停止しており、顔色のチアノーゼがみられた。母がすぐに胸骨圧迫を開始し、救急車を要請した。約3分ほど胸骨圧迫したところで啼泣、自発呼吸が出現した。覚知より10分後に救急隊が到着し、それから約20分後に、当院へ救急搬送された。</p> <p>児が1か月の頃より首浮き輪を使用しており、今までひやりとするような事象は経験していない。最近では児も大きくなってきたので、首浮き輪の空気をいっぱいにしてしていると圧迫感があって首が苦しいだろうと思い、首浮き輪の空気を抜き気味にして使用していた。</p> <p>首浮き輪は、ベビー用品売り場で購入した。母親は、周囲の人たちも首浮き輪を使用しており、お風呂で使うものだと思っていた。今回、スイミング用であると聞いて驚いたと話した。首浮き輪の事故の報道(2012年7月)についても知らなかった。生後1か月から使用できると聞いており、児もお湯につかれたらよいと思って1か月健診の直後より毎日使用していた。児の足がつく深さで使用と説明書にはあるが、児の足のつかない深さで使用していた。</p>
治療経過と予後	<p>来院時、気道は開通していた。自発呼吸はあるものの不整で、呼吸数は40回/分、SpO<sub>2</sub> 98% (酸素リザーバーマスク：8L)、聴診上、両側肺野に分泌物音が聴取された。脈拍数は200/分、収縮期血圧は100 mmHg、CRTは1秒、末梢冷感や網状チアノーゼはなかった。意識レベルはGCS：E1V4M4と意識障害を認めたが、瞳孔不同は認めず、対光反射に異常はなかった。体温は35.8℃(肛門)で、明らかな外傷痕は認めなかった。血液検査では、pH 7.223、pCO<sub>2</sub> 34.0 mmHg、HCO<sub>3</sub> 13.5 mmol/l、Lac 7.5 mg/dl、BE -13.0、Glu 161 mg/dl、WBC 20,710/μl、Plt 34.8万/μl、AST 70 IU/l、ALT 41 IU/l、CPK 162 IU/l、BUN 6.8mg/dl、Cre 0.19mg/dl、CRP &lt; 0.2 mg/dlであった。胸部単純レントゲン検査では、両側肺野に透過性の低下を認め、頭部単純CT検査では明らかな出血や骨折はなく、その他明らかな異常は認めなかった。</p> <p>意識障害・呼吸不全を認め、気管挿管・人工呼吸管理、低体温療法を含めた集中治療管理を行った。入院4日目の頭部単純CT検査でも著変なく、入院5日目に抜管した。意識状態、呼吸状態、循環状態は安定して経過し、入院8日目に明らかな後遺症なく退院となった。</p>	